

事業の背景・目的

オガサワラハンミョウは、平成20年に「絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種に指定されており、小笠原諸島の兄島を唯一の生息地とし、生息個体数は非常に少ないと推定されている。伊丹市昆虫館では、平成23年から環境省関東地方環境事務所野生生物課よりオガサワラハンミョウ生息域外保全業務の委託を受け、オガサワラハンミョウの飼育業務を行っている。

事業の内容

オガサワラハンミョウの生息域外個体群を継続して維持することにより本種の保存を図り、野生復帰に必要な飼育繁殖技術の確立及び生態等の科学的知見の集積を行うために、室内気温が年間22~24℃で安定している第2蝶飼育室内でオガサワラハンミョウ幼虫の飼育と蛹の管理を行った。また、第2蝶飼育室に設置したインキュベーター内で成虫の飼育と繁殖を行った。また展示室においてオガサワラハンミョウの成虫と幼虫の継続的な生態展示を実施した。



得られた成果

オガサワラハンミョウの累代飼育を継続することで、種の保存に貢献できている（今期における成虫の羽化個体数は13個体）。飼育技術の改良・効率化をすすめるとともに、課題となっている3齢幼虫における不規則休眠とその打破方法を図るための飼育データの蓄積を行った。またコロナ禍において入館者数の減少が顕著だったが、それでも年間9万人以上の来館者に生きたオガサワラハンミョウと当館の保全活動に関する展示を提供できたことは教育普及において大きな効果があったと考えている。

オガサワラハンミョウの生息域外個体群を継続して維持することにより種の保存を図るとともに、野生復帰に必要な飼育繁殖技術の確立及び生態等の科学的知見の集積を行う。また本種だけでなく他の絶滅危惧昆虫の保全も並行して行い、その活動を来館者にアピールすることで、生物多様性に係る教育普及活動にも努めていく。